



教員が研究の楽しさを語る

第264回(6/7)高橋 知之先生推薦 ブックガイド



※掲載されている本はN棟3階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

現代の英雄

(光文社古典新訳文庫)

著者：レールモントフ著；高橋知之訳

出版：光文社, 2020.10

コメント：

決闘によって夭折したカリスマ的詩人が残した唯一の長篇小説。ロシア近代文学勃興期の作品ながら、緻密な文体と複雑な構成を有し、ほとんど前衛的な印象さえ与える。主人公ペチョーリンは、決して解かれることのない謎として、今なお読者を惹きつけてやまない。



Book2

ロシア近代文学の青春：反省と直接性のあいだで

著者：高橋知之著

出版：東京大学出版会, 2019.6

コメント：

ロシア文学史において「驚くべき十年間」と称される1840年代を、「反省」「直接性」というキーワードのもとに再考した。プレシチエーエフやグリゴリーエフなど、「マイナー」とされてきた作家たちの先鋭な役割を明らかにし、それに照らして所与の文学史を問い直した。





※掲載されている本はN棟3階 アカりんアワーのコーナーに配架されます。

Book3

ロシア文化55のキーワード (世界文化シリーズ 7)

著者：沼野充義 [ほか] 編著

出版：ミネルヴァ書房, 2021.6

コメント：

ロシア文化を55の視点から紹介する概説書。文学、音楽、料理、スポーツなど、主題の多彩さによって類書からは一線を画す。

高橋も「トルストイかドストエフスキーか——二者択一を超えて」の章を担当。ロシア文学の二大巨頭について、従来の類型論的な対比を超えた解説を試みた。

